普天間飛行場の運用実態について、普天間飛行場を管理・運用する米太平洋海兵隊司令官グッドマン中将によると「ヘリパターンからのアプローチや離陸ルートは可能な場合は学校や文化施設の上空を避けるように特別に設定されています。」「パイロットは可能な場合はいつでも学校、病院、文化施設の上空を避けるように飛んでいます」と述べている。しかしながら、普天間飛行場の周囲は左図のように、公共施設、ショッピングセンター、幼児保育施設、病院、自治会事務所などが約121箇所以上も存在しており、米軍ヘリや輸送機等がそれらを避けて飛ぶことは不可能であることが簡単に理解できる。「沖国大への米軍ヘリ墜落事故は米軍ヘリがそれら教育施設等を避けて飛ぶことが出来なかったことを如実に示している。」

普天間飛行場の周囲には9万人の市民が居住し、121箇所以上の公共施設等がある